

2016年2月4日  
在マイアミ日本総領事館

## 【フロリダ州知事による公衆衛生上（ジカ熱）の緊急事態宣言について】

3日、フロリダ州スコット知事は、フロリダ州内4郡（マイアミ・デート郡、ヒルズボロー郡、リー郡及びサンタ・ローザ郡）で本年に入ってから9名のジカ熱感染患者が確認されたことを受け、当該4郡に公衆衛生上の緊急事態を宣言しました。9名は全員中南米諸国へ渡航中に蚊を媒介として感染した模様です。これまでのところ、フロリダ州で感染した事例はありませんが、最新の情報を入手するなどの警戒が必要です。詳細については以下のとおりです。

### 1 感染者状況等

フロリダ州でのジカ熱患者の発生については、本年1月22日、フロリダ州内で3人のジカ熱患者が確認されたとフロリダ州保健局が発表しました。さらに2月2日、新たに6人のジカ熱患者が確認されたと発表しました。これまでに計9人がジカ熱に罹患していたこととなります。いずれの患者も旅行関連症例（輸入感染）で中南米のジカ熱流行地域を旅行中に感染したとされています。9人のジカ熱患者の所在地域は、マイアミ・デート郡4人、ヒルズボロー郡2人、リー郡2人及びサンタ・ローザ郡1人となっています、

#### 【参考URL】

- ・ <http://www.floridahealth.gov/newsroom/2016/01/012216-drain-and-cover.html>
- ・ <http://www.floridahealth.gov/newsroom/2016/02/020216-article-travel-associated-zika-cases-cdc.html>

これを受けて2月3日、スコット・フロリダ州知事は、9人のジカ熱患者が発生したマイアミ・デート郡、ヒルズボロー郡、リー郡及びサンタ・ローザ郡に公衆衛生上の緊急事態 (a public health emergency) を宣言しました。

### 2 ジカ熱について

#### (1) 感染経路

ジカ熱ウイルスによる感染症で、ウイルスを持ったネッタイシマカやヒトスジシマカに刺されることで感染します。感染した人を蚊が刺すと、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊に他の人が刺されると感染する可能性があります。極めて稀なケースとして、献血や性交渉による感染の可能性も指摘されています。

#### (2) 症状

ジカ熱ウイルスを保有した蚊に刺されて感染してから発症するまでの期間（潜伏期間）は2～12日。主に2～7日で、およそ2割の人に発症すると言われています。発症すると軽度の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、疲労感、倦怠感などを呈しますが、一般的にデング熱やチクングニア熱より軽症と言われています。また、ジカ熱ウイルスに感染しても症状が現れない場合も多く（不顕性感染）、発熱等の症状が出るのは5人に1人と云われています。

### 3 フロリダ州におけるジカ熱ウイルスを運ぶ蚊の状況

ジカ熱ウイルスを運ぶのは、ネッタイシマカとヒトスジシマカと云われており、この2種類の蚊は、両方ともフロリダ州内に分布しています。

これまでのところフロリダ州で発生したジカ熱患者は、いずれも中南米を旅行中にジカ熱ウイルスに感染したとされており、フロリダ州内で感染したものではありません。フロリダ州はジカ熱の流行地域には入っていませんが、今後、州内でジカ熱ウイルスが感染する事態になる可能性は否定できません。

これからマイアミは蚊の多い季節を迎えますので、蚊に刺されないように以下の点等に十分注意して下さい。また、州内でジカ熱が感染するような事態となる場合には、当館のホームページ上に、最新の情報を掲載するように致します。また、その他以下のURLを参考にして下さい。

#### ○ 当館ホームページ

[http://www.miami.us.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.miami.us.emb-japan.go.jp/index_j.htm)

#### ○ 外務省海外安全ホームページ（中南米を中心としたジカ熱の流行について）

<http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>

#### ○ 【感染症危険情報】2016/02/02 感染症危険情報（中南米等におけるジカウイルス感染症の流行：妊婦及び妊娠予定の方は特にご注意ください。）

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo.asp?infocode=2016T012#ad-image-0>

### 4 ジカウイルス感染症と小頭症等との関連について

2015年11月28日、ブラジル保健省は、妊娠中のジカウイルス感染症と胎児の小頭症等に関連が見られることを発表しました。同省によれば、2015年10月から2016年1月第3週までに、同国内で4,180例の小頭症児が報告されています。現時点においてジカウイルス感染症と小頭症との因果関係は明らかではありませんが、WHOが緊急事態を宣言したことを踏まえ、詳細な調査結果が得られるまでの間、特に妊婦及び妊娠予定の方の流行国・地域への渡航及び滞在は可能な限りお控えください。

### 5 注意事項

ジカウイルス感染症には有効なワクチンや治療法はありません。蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法になりますので、ジカウイルス感染症の流行国・地域への渡航滞在を予定している方は、次の点に十分注意の上、蚊に刺されないよう感染の予防に努めてください。

● 外出する際には長袖シャツ・長ズボンなどの着用により肌の露出を少なくし、肌の露出した部分や衣服に昆虫忌避剤（虫除けスプレー等）を2～3時間おきに塗布する。

※ 昆虫忌避剤は、ディート（DEET）やピカリジン（Picardin）等の有効成分のうちの1つを含むものを、商品毎の用法・用量で適切に使用する。一般的に、有効成分の濃度が高いほど、蚊の吸血に対する効果が長く持続すると言われている。

- 室内においても、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤、蚊帳（かや）等を効果的に使用する。
- 規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつける。
- 軽度の発熱や頭痛、関節痛や結膜炎、発疹等が現れた場合には、ジカウイルス感染症を疑っ

て、直ちに専門医師の診断を受ける。

● 蚊の繁殖を防ぐために、タイヤ、バケツ、おもちゃ、ペットの餌皿等を屋外放置しない、植木の水受け等には砂を入れるなどの対策をとる。

【お問い合わせ先】

Consulate General of Japan in Miami

80 S.W. 8th Street, Suite 3200

Miami, FL 33130

(電話) 305-530-9090

(F A X) 305-530-0950